

令和4年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立福生高等学校 学校運営連絡協議会（定時制課程）
- (2) 事務局の構成
主任教諭（教務主任兼務）＝事務局長、主幹教諭1名 計2名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、教務主任、生活指導主任、進路指導主任、学年主任計7名
- (4) 協議委員の構成
PTA会長1名、近隣中学校長1名、地域代表2名、福生市教育委員会1名、特別養護老人ホーム施設長1名、若者サポートセンター1名 計7名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～3回）の開催日時、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年5月20日（金）内部委員7名、協議委員5名出席
令和3年度学校運営連絡協議会実施報告
学校経営計画と組織目標、本校の現状と課題等書面による報告
 - 第2回 令和4年10月21日（金）内部委員7名、協議委員6名出席
学校評価アンケート内容の検討、これまでの教育活動に関する報告と協議
協議委員から教育活動に対する意見
 - 第3回 令和5年2月3日（金）内部委員7名、協議委員7名出席
学校評価アンケートの結果報告、これまでの教育活動に関する取組の結果等書面による報告
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
 - 第1回 令和4年10月21日（金）本校校長会議室 内部委員1名、評価委員2名
内容 学校評価の基本方針の確認、今年度の学校評価の実施に向けた検討
 - 第2回 令和5年2月3日（金）本校校長会議室 内部委員1名、評価委員2名
内容 今年度の学校評価結果等書面による報告

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
「学校運営」「学習活動」「生活指導」「進路指導」「特別活動」「健康・安全」などの観点で実施した。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模（）数字は昨年度
 - ア 11月 全校生徒 対象：58人 回収：49人 回収率：84%（93%）
 - イ 11月 保護者全員 対象：58人 回収：35人 回収率：60%（46%）
 - ウ 12月 地域・住民 対象：100人 回収：71人 回収率：71%（75%）
 - エ 11月 教職員 対象：8人 回収：8人 回収率：100%（100%）
- (3) 主な評価項目
ア 学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、施設・設備、その他（読書活動、体罰指導、ライフ・ワークバランス）
- (4) 評価結果の概要
令和2年度から令和4年度の経年変化から学校評価の概要を検討し、評価結果の分

析・考察を行った。

ア 生徒の評価

① 全般

福生高校に入学しての満足度はこの3年間80%台後半で推移している。高校生活が将来役立つと考えている生徒は昨年度とほぼ変わらず80%台を維持している。

② 学習

「教科書内容の適性や指導の工夫」の肯定的評価は今年度73%である。設問4の「先生の教え方や教材の工夫」も88%から78%と減少した。おおむね8割とすれば悪くはない数字であるが、今後は注意が必要である。また、設問5の「授業に参加して、学習への興味・関心・意欲を持つようになった」は77%から73%にやや減少した。

③ 生活指導・進路指導

今年度、特別指導は行っていないが、「暴力やいじめの防止等、安心して学校生活を送れる生活指導が行われている」の設問は昨年の89%に比べ82%にやや減少した。「基本的生活習慣、社会性を身に付ける指導」を肯定的に受け止めている生徒の割合は83%、進路指導の充実に関する生徒の肯定的評価も76%でやや減少した。

④ 特別活動・部活動

学校行事についてはコロナ禍の影響もあり76%から73%とやや減少傾向である。部活動の設問に対し「積極的に参加している」と回答している生徒は50%で、これは加入率と同一の数値である。

⑤ 健康・安全

健康で安全な社会生活を送るための取組や健康管理への取組に対する肯定的評価は80%程度で推移している。

⑥ 施設・設備、読書活動

施設に対する生徒の肯定的評価は78%でわずかに減少した。読書活動についての評価が約73%で減少したが、2年前の数値に戻った。

⑦ 体罰指導

体罰や暴言をなくす取組を評価していた割合がここ3年間では80%台を維持している。

イ 保護者の評価

回収率は、昨年度の46%から60%に増加した。昨年度以上に各担任に生徒への声掛けをしてもらった結果である。ここ3年間では最も良い数字である。

主に学習面に関しての設問では、昨年度と比較して差異はそれほどなく、おおむね保護者の信頼を得られていると考える。

生活指導面では、安全・安心の設問において昨年の97%から76%に減少しているが、生徒の回答は肯定的回答が8割あるので、今後の数値の動き方に注意する。

進路相談や進路講演会の設問は今年度97%であり、2年前の70%から大きく改善した。進路担当の教員配置により昨年度の課題が解消したことによるものとする。

部活動の積極的参加の設問について今年度47%で、減少傾向である。積極的に取組んでいる生徒もおり、全国大会で入賞などの実績もあるが、より効果的なPRと、生徒の自己肯定感の育成が課題である。

読書活動の推進においてもより一層のPR強化が必要である。

ウ 教職員の評価

教員が100%肯定的評価をしている項目の数は昨年同様全15項目中10項目である。意識を高くもち指導に当たっている気持ちの表れと感じる。

「福生高校に入って良かった」という項目が昨年の100%から88%に下落した。この数値の改善には、入学後の学校生活への不適応の改善、生徒のもつ様々な課題の解消が必要と考える。引続き解決に向けた努力を行う。

学習面について、設問5の学習への興味・関心のもてる授業づくりに関して、教員の意識は高いが、生徒がわずかに減少していて、この差異が広がらないよう生徒の実態をきちんととらえて授業を行うことが大切である。

設問8の進路指導の充実度合いが昨年38%から75%に回復した。進路担当教員の配置により、昨年度の課題が解消したためと考える。

学校の施設・設備に関する評価は昨年の75%から65%に減少した。

エ 地域住民の評価

文化祭の項目についてはコロナ禍により3年連続で回答が得られていない。全体的に昨年度との差異は少なく、おおむね良好な数値である。地域に対して、引き続き効果的にPRに努めたい。

オ ライフ・ワークバランスについての評価

「国や都は働き方改革に取り組んでいるか」という設問に対して、保護者の数値が昨年度より減少した。教員は昨年に続き50%で、多忙な教員のイメージが固定化している。設問18の「各種会議時間の上限と在校時間の縮減」について、今年度職員会議の回数を半分削減したため、高い数値に上昇した。

(5) 評価結果の分析・考察

ア 学校全般

本校に入学して満足していると考えている生徒・保護者・教員の割合は高い水準を維持しており、生徒や保護者が学校に高い信頼を寄せていると言ってよい。

イ 学習

教員が生徒の学習指導について学力向上のための努力をしているという評価が生徒や保護者から得られているものの、それが生徒の学習への興味・関心・意欲の高まりに結びつくまでには至っていないことが課題である。

ウ 生活指導

安全・安心のための生活指導に関して、生徒・保護者と教員との間に若干の意識の違いが見られるので、教員が生徒の自己肯定感の育成に努め、生徒が自信を持てるようにすることで解決を図る。

エ 進路指導

昨年度教員の欠員により生じた課題が、今年度は解消されているので、数値は回復している。指導内容の充実に向けて、引き続き努力する。

オ 行事・部活動

今年度もコロナ禍により修学旅行や観月祭は行えなかったが、ディズニースーパースタジアム遠足を追加することで生徒の学校生活へのモチベーションが下がらないよう努力した。

部活動に対する評価は、50%の高い加入率や自転車競技部と野球部の全国大会への出場等成果が出ている反面、アンケートの回答状況に出てきていない。今年度はHPを利用して積極的にPR活動を行ってきたが、今後は生徒の自己肯定感を育成につとめ、部活動についてもっと自信を持てるような指導の工夫が必要である。

カ 健康・安全

全体的には高い水準を維持していると言ってよく、これからも、今までの取り組み

の維持を心がけたい。

キ ライフ・ワークバランス

ライフワークバランスの必要性や取組の大切さが認識され、教員側で業務の効率化の努力を行っているが、日々目まぐるしく変わる教育改革の波や、コロナ禍による新たな対応により、教員の多忙感を払拭できるものとはなっていない。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

本校が取り組んでいる「入って良かったと思える学校」を目指して、落ち着いた学習環境を作りながら、基礎学力の向上、生徒一人一人の進路実現、人間性を磨く教育を組織的に推進してきたことについて、生徒・保護者の理解が定着してきている。また、地域連携により、地域の防災訓練に参加するなど、共通の取組を持つことができている。今後も地域との可能な限りの連携を深めていきたい。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

夜間定時制という厳しい条件ではあるが、学校の取組みに対する成果は様々な形で実を結んでおり、これからも様々な方策を継続して実施することで、さらにより良い学校にしていく。コロナ禍により課題となった「地域に向けた PR」に関して、工夫をしていくことで、より開かれた学校としての姿を示したい。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項

(1) 学校運営

各分野の指導において組織的な対応をさらに推進する。

(2) 学習指導

授業規律の向上を推進し、授業改善をこれまで通り進めるとともに、オンライン授業実施時の課題整理、対話的・主体的で深い学びを実現する授業と観点別学習の評価等新学習指導要領に基づいた教育活動を実施する。

(3) 特別活動

部活動の加入率の増加や活動の活性化と継続性を図る。その他、地域や都民に対して部活動の実績の効果的な PR 活動に継続して努めるとともに、生徒の自己肯定感を育み、活動に自信が持てるよう指導を行う。

(4) 生活指導

日々の努力により、落ち着いた学習環境の確立に近づいている。交通マナーの指導の徹底と、授業規律の確立に一層の努力をする。

(5) 進路指導

これまで通り4年間を見通した進路指導を実施し、低学年での進路意識の向上を図る。面談週間を活用して、個別指導を充実させる。学年や、他分掌にも協力を得られる体制を整える。

(6) 健康・安全

これまで通りセーフティ教室や薬物乱用防止教室を実施し、健康・安全を推進する。必要に応じてコミュニケーションアシスト講座への参加や通級の導入等学校生活への適応に課題のある生徒への取組を行う。また、スクールカウンセラー等外部機関と組織的な連携を強化する。

(7) ライフ・ワークバランス

今後も計画的に業務のスリム化を行い、ライフ・ワークバランスの実現を図る。また、

保護者や地域の方にも取組を伝える努力をする。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7人

(2) 学校がよくなったと答えた協議委員の人数 ()内は昨年の数値

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
7 (4)	0 (2)	0 (1)	0	0	0	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

(1) 実績

ア 職員会議 0回 延0人

イ 企画調整会議 0回 延0人

(2) 成果

職員会議や企画調整会議は決められた曜日・時間であるため、参加できる協議委員はいなかった。今後、さらに参加を呼びかける。